

「復活の希望」

ヨハネによる福音書二〇章一節～一八節

南山教会 二〇二〇年四月一二日

村山盛芳

ヨハネによる福音書は、マグダラのマリヤをイエス復活の第一証言者として登場させています。マグダラのマリヤについて聖書は、「イエスによって七つの悪霊を追い出していただいた女性」と紹介しています。七つの悪霊に縛られた人生、それは彼女の品行やふしだらな生活が原因だったのかもしれませんが、いずれにせよ悪霊に縛られた人生は他の人々から見捨てられ、何の希望も持つことができない悲惨な人生であったことに違いありません。その彼女の前にイエスが現れて、悪霊を追い出してくださいとくださったのです。たちどころに彼女の人生は一変しました。それ以来、マグダラのマリヤはイエスを心から愛し、従い続けました。イエスが十字架に架けられた時にもそこを離れず、復活の朝、誰よりも早く葬りのための油を塗るためにイエスが葬られた墓へ駆け付けようとしていました。

彼女が墓に着くと、すぐに異変に気が付きました。墓に立てかけられていた大きな石がかかされていたのです。また、番兵たちも誰一人いません。マリヤはとつさに、「イエスの遺体が盗まれた」と思い、すぐに弟子たちのところへ報告に行きました。彼女の報告を聞いて、ペトロともう一人の弟子が急いで墓へ駆けつけました。墓の中にはイエスの遺体はなく、体に巻かれていた亜麻布と頭に巻かれた亜麻布が巻かれた状態で置いてありました。

マグダラのマリヤも遅れて再び墓に到着しました。彼女は墓の前で呆然と立ち尽くし、涙

していました。そして墓の中をのぞくと天使が二人いるのを目撃しました。天使はマリヤに向かつて「なぜ泣いているのか？」と質問しました。マリヤは「わたしの主が取り去られました。」と答えました。そして背後に気配を感じて振り向くと、そこにも人が立っていました。マリヤはそれが誰なのか分かりませんでした。「マリヤ」と言う呼びかけにやっとイエスだと気が付きました。そのあと、マリヤはイエスに命じられた通り、再び弟子たちのところへ報告に行きました。

主イエスが復活された朝の出来事をから二つの学びたいと思います。

イエスがよみがえられたのは日曜日の朝でした。それには理由がありました。イエスが墓に葬られたのは金曜日でした。日本で三日目と言うと月曜日になります。ユダヤ人の数え方は最初の日を含めて数えます。ですから三日目は日曜日です。

日曜日の朝にイエスがよみがえられたことは、新しい時代の幕開けと言えます。旧約聖書には神が六日間でこの天地万物を創造され、七日目に休まれた事が記されています。この理由で七日目が安息日として定められ、神が休まれたように人間も仕事を休むようにと命じられたのです。そして次の日曜日から新しい一週間が始まりました。そのため七という数字はユダヤでは完全や完成をあらわし、八は新しい始まりを意味しました。イエスが八日目、つまり日曜日によみがえられたのは新しい時代が始まることを表しています。イエスの十字架の血潮によって結ばれた新しい契約に基づく時代です。旧約の律法の契約は古いものとされ、新しい契約のもとに生きる時代が始まったのです。

イエスが日曜日の朝によみがえられたのは神の計画でした。ですから、日曜日は初期のクリスチャンによって主日と呼ばれ、礼拝が日曜日に持たれるようになりました。教会がなぜ

日曜日に礼拝を持つのか、それはイエスがよみがえられたからです。日曜日こそキリスト者がイエスの復活を記念し、礼拝をささげるにふさわしい日なのです。

私たち一人一人が主の復活の日曜日を聖別して、心から礼拝を尊び、兄弟姉妹と共に賛美をささげつつ礼拝するなら、どれほどの祝福があることでしょう。クリスマスチャンは教会の礼拝の主催者です。キリストの体の一部として、お客さんではなく主催者、お招きしてもてなす側にいるのです。誰をお招きするかと言えば、もちろん新来者や、求道者の方々をお迎えして、歓迎します。そして何より私たちがお迎えするのは主イエスです。私たちの教会にイエスをお迎えして礼拝を持つのだという意識があるなら、礼拝は熱のこもった喜びに満ちたものとなるはずで、礼拝に集われた一人一人が神の祝福をいただいて感謝と喜びを持ち、世に証し人として遣わされていく、そんな教会こそ神が喜ばれる教会なのです。

もう一つの点に注目したいと思います。それはマグダラのマリヤにかけられた天使の言葉とイエスのことばです。「なぜ泣いているのか?」、天使もイエスもマリヤの心の状態を知っていたはずで、しかし、あえて「なぜ泣いているのか」と問われました。それは「なぜ泣く必要があるのか?」、「もう泣く必要はないのだ」というメッセージなのです。イエスがよみがえられたことは、まぎれもない事実でした。主は死んでしまったと悲しみに沈んでいたマリヤに、「なぜ泣いているのか」と問うことにより、ご自身がよみがえったことを示されました。歴史の中でイエス・キリストの復活の事実を葬り去ろうとする多くの試みがなされてきました。弟子たちの妄想だとか、キリスト教を作るための虚言だったとします。また、有りもしないことが言われるようになりました。「イエスは仮死状態だったのが息を吹き返して、生き延びた」とする話や、「十字架についたのはイエスの弟で、本当のイエスは生きていて、

日本にも渡って来て宣教した」などもそうです。けれど、歴史はキリストがよみがえられたことを確実に証明しています。それは脅されても、いのちを取られても証言をひるがえさなかつた弟子たちの宣教です。その宣教があつたからこそ現在でもキリストの福音が世界中に宣べ伝えられているのです。もし、キリストがよみがえらなかつたのなら、キリストの教えは伝えられなかつたでしょう。それは無意味だからです。もしキリストがよみがえらなかつたのなら福音を宣教することは愚かなことです。しかし、キリストは墓の中からよみがえられました。反対者たちがキリストの復活を否定したかつたのなら、キリストの遺体を人々に見せるだけで事は済んだのです。しかし、ローマの兵隊たちは守衛していたイエスの墓に遺体を見つけることができませんでした。墓は空っぽだったからです。今日、どうぞ確信してください。「本当に、イエスはよみがえられた！」と。